(別記様式)

令和３年度　府立北桑田高等学校　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（　実施段階　）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
１ 時勢の変化と教育に対する社会的ﾆｰｽﾞの推移に対応した、特色ある教育の創出 ２ 基礎学力を身につけるとともに、進路目標に応じた学力･能力を身につけ、自らを高め、将来を切り拓いていくことができる生徒の育成 ３ 郷土の自然や文化に学び、前向きに地域社会とかかわり、貢献しようとする姿勢を持つことのできる生徒の育成	• ｺﾛﾅ禍による臨時休業期間もあったが、少人数を活かした個に応じた学習指導、進路指導を進めることができた。予備校ｻﾃﾗｲﾄ講座、進路講習、模試等を効果的に配分し、新しい時代の入試への対策をとった結果、ほとんどの生徒が希望進路を実現できた。 • ICT 教育を拡充させ、どのような条件下においても学習活動等が保障できるよう取り組んだが、教職員研修面や環境整備面が追いつかず、全体の取組にならなかった。 • HP やﾒｰﾙ、広報誌等による発信は行ったが、本校の魅力を伝える広報活動をさらに工夫し、生徒募集活動と連動させる必要がある。 • 地元に加え他地域も含めた入学生の確保に向けた取組を進めたが、選抜内容の検討や寮整備など、更なる条件整備を行う必要がある。 • 行事の精選･会議の効率化など、働き方改革を推進しているが、本校の特色ある教育活動を損なうことなく一層の進展を図る必要がある。 • ﾌﾘｰｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞを立ち上げ、小規模校での新たな部活動の在り方を探っており、ﾓﾃﾞﾙｹｰｽとなるよう引き続き内容の検討を進める必要がある。	１ 学校活性化構想の総仕上げにあたり、「SDGs」を教育活動の中心に据え、地域･生徒保護者のﾆｰｽﾞと期待に応える教育活動を推進する。 ２ ICT 教育の推進のため、情報環境の整備を図るとともに、先進事例や本校に適した方策を研究し、教職員研修の充実を図る。 ３ さらなる教育内容の工夫、寮の整備を含む環境整備、入試制度の検討を進め、特色化･魅力化を推進する。 ４ 多様な生徒の実態や進路希望に応じ、学力･能力の向上のため、主体的･能動的な学びに導く、質の高い教科指導を組織的に展開する。また、 新学習指導要領、高大接続改革、新たな大学入試制度への対応を定着させる。 ５ ｺﾐｭﾆﾃｨｽｸｰﾙのﾓﾃﾞﾙ校となるよう、地元幼小中学校や大学･関連機関との連携を進め、地域と連携し、地域に信頼され、地域の活性化に貢献できる取組を更に推進する。 ６ 引き続き特別活動や学科、部活動などの特色ある教育活動について積極的な情報発信を行い、組織的、効果的な生徒募集につなげる。

《 分 掌 》

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織運営	学校活性化の推進	専門学科「京都ﾌｫﾚｽﾄ科」の教育内容の充実	A	A	B	地域や関連機関との協力の下、新たな内容を含め多くの連携事業を行うことができ、確かな教育効果が得られた。 教育環境の変化に応じて校内体制を見直し効率的な学校運営を心がけたが、更にﾌﾞﾗｯｼｭｱｯﾌﾟを進める。ICT 教育は、1 人 1 台ﾀﾌﾞﾚｯﾄの導入を控え、 研修も含め、優先的に取り組む必要がある。
		生徒募集に係る諸制度と校内体制の見直し	A			
		地域連携を重視した普通科教育の充実	A			
	「チーム北桑田」としての組織的で効率的な学校運営	校内各種会議の機能的運営	B	B		
		分掌間･教科間･学科間等、教職員間の連携強化	B			
	働き方改革の推進	退勤時間を意識した業務の効率化･合理化	B			
	教職員研修の充実	ICT 教育関連の研究と教職員研修の充実	B	B		
		初任者研修を核とした「学び合う集団」づくり	B			
		地域や大学･関連機関等との更なる連携促進	A			

評価領域	重　点　目　標		評価		成　果　と　課　題
教育課程の編成と実施	生徒･保護者･地域のﾆｰｽﾞと期待に応じた教育課程の編成･再考と実施	本年度の学校経営計画重点４に即したかたちで、令和４年度学習指導要領に応じた教育課程の編成	B	B	関係教科と連携を図り、令和４年度実施教育課程を編成した。 次年度、新課程の運用と同時に課題･修正点の把握に努め、令和５年度実施教育課程の編成に活かす。
学習指導	学習指導に関する授業評価ｱﾝｹｰﾄにおいて肯定的な意見、85％到達	教師が生徒と共有する時間の確保のために、主管会議の精選･教育環境の整備･教育計画の工夫と実現	B	B	主管会議の精選･教育計画の工夫等、臨機応変に対応し、一定の成果が得られた。次年度も教職員の負担軽減につながる工夫に努める。 肯定的意見 82％と一定の評価は得られたが、家庭学習による学力伸長については今後も課題とする。
		生徒の知的好奇心を満足させる授業改善と家庭学習の習慣化による学力の伸長	B		
総務企画	学校経営計画及び年間指導計画に基づいて展開する教育活動の記録と広報	令和３年度に展開する教育活動と真剣に学ぶ生徒の表情を記録し、学校案内、広報誌、ＨＰ等を通して、広く地域社会に発信する。	A	B	本年度、主に生徒募集･広報･PTA･学校特色化事業を校務分担する分掌として再編されｽﾀｰﾄした。その中で、どの事業分野も、新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症の影響を受け、当初の事業計画通りに実施することができなかった。関係分掌と協議し、臨機応変に対応して実施したが、次年度、『with ｺﾛﾅ』を意識し、感染状況に左右されない事業計画を策定する必要がある。
	令和４年度入学生の定員充足率 75％、美山中学校･京都京北小中学校からの進学率 80％達成	学校説明会、中学校訪問、個別進路相談、広報物の発行を組織的、計画的、効果的、効率的に行い、進路指導の一助となる情報提供を行う。	B		
	京都ﾌｫﾚｽﾄ科･普通科の特色ある学び、地域社会と協働した学びを融合させた学力向上ｼｽﾃﾑの構築	各教科･領域、校務分掌、それぞれで展開する教育活動を、生徒の学力伸長と地域ｺﾐｭﾆﾃｨの活性化の視点から両立させる取り組みとするためのｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄを行う。	B		
人権教育	生徒の人権意識の向上	生徒の実態に即した人権教育の実施と人権尊重の意識や差別を許さない態度の育成	B		特設人権 HR を各学年とも年間２回実施することができた。人権学習後の感想文は、自分の生き方についてしっかり考えられたものが多かった。これからの行動に繋がればと期待する。 教職員研修は、ｺﾛﾅ禍の中で、各自の DVD 視聴を企画した。感想文の提出状況が思わしくなかったので、開催方法については一考を要す。
	分掌、特に学年との連携を密にする教職員研修の充実	各学年の課題に対する適切な対応	A	A	B
		教職員の世代交代を踏まえ、これまでの人権教育の成果と課題を引き継ぐ取組の推進	B		
進路指導	生徒の希望進路実現をめざし、３年間を見通した進路指導を推進し、進路意識を　喚起して自ら進路を切り拓く力を育成する。	担任団、各教科と連携し、多様な生徒一人ひとりの適性･能力を的確に把握し、希望進路の実現に向けた学力･能力の向上を図る	B	B	ｺﾛﾅ禍の中で、計画していた進路行事が計画通り実施できなかったが、担任団と連携しながら、創意工夫をし、進路意識を醸成させる取組を実施した。 模擬試験では、事前課題や過去問題への取組など担任･教科担当者と連携し取り組んだ。 進路かわら版の定期的な発行や、保護者向けの進路講演会なども実施できたが、保護者ｱﾝｹｰﾄでは高い評価が得られていない。保護者向け進路行事のｵﾝﾗｲﾝでの実施などより充実させていくことが必要である。
		進学講習、ｻﾃﾗｲﾄ講座、模擬試験等を活用し、学ぶ姿勢を確立し、学力の定着と向上を図る	A		
		新学習指導要領、高大接続改革、新たな大学入試制度の情報収集を行い、正確･迅速な対応をする	B		
		保護者向け進路講演会、進路説明会、学校見学会などを適切な時期に実施し、保護者への情報提供の充実を図る	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識・社会性の養成	「挨拶」「正しい言葉遣い」「身だしなみを整える」等当たり前のことが当たり前にできるようにする	A	A	A	朝の立ち番や頭髪服装点検等で挨拶や身だしなみ等の指導を行った。頭髪加工をする生徒もいたが素直に指導に従い改善した。 担任や各分掌と連携し問題行動の未然防止に取り組めた。　定期的に通学路で交通安全指導を行ったが継続して行う必要がある。
		SNS ｳﾞｨﾝﾄﾈｯﾄ関連のﾄﾗﾌﾞﾙを未然に防ぎ、規則違反やﾏﾅｰ違反・不正を許さず、安心安全な学校生活の推進	B			
		家庭・関係機関と連携した問題行動の未然防止と全教職員の一致した指導	A			
	安全教育の徹底	毎月定期的に通学路で自転車通学生への交通安全指導を行う	B			
特別活動	生徒会活動と部活動の充実	学校祭や行事だけでなく日常の学校生活でも生徒会が主体的に活動できるようにする	A		A	体育祭や、目安箱など生徒会が学校の中心となり活動できた。 ﾌﾘｰｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞは活発に活動できたが継続への課題を解決していく工夫が必要である。
		ﾌﾘｰｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞが今後も継続・発展出来るよう活動の方法等を検討する	B			
健康・安全教育	保健管理、保健教育の充実	新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症等の予防対策としてﾏｽｸ着用、消毒、３密回避、換気等を常に意識させる	A	A	A	新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症予防についての啓発はしっかりできていた。 検診結果に基づいた指導を行い受診が必要な生徒の受診率向上へ繋げる努力はできた。 「薬物乱用防止教室」「生命のがん教育」「性教育」計画したものは実施できしっかり理解できている感想が多かった。 生徒の状況共有、ｶｳﾝｾﾗｰ、担任等との連携を密に行い指導へと繋げられた。
		各種健診結果に基づき、本人への指導、保護者との連携を強化、工夫し必要な生徒の医療機関の受診率を向上させる	B			
		保健学習を通して、自己の健康や取り巻く情勢について理解し、正しい言動へと繋げる	A			
	特別な支援を要する生徒への指導・支援の充実	生徒の状況の把握と共通理解を深め、専門機関との連携も視野に入れ、個々の生徒に必要な指導、支援に努める	A			
道徳教育	規律・規範を重んじる姿勢の養成	規則や、公共の場におけるﾏﾅｰを守る態度の育成	B		B	授業や学校行事を通して、望ましい人間関係や人間性について考え、実践する機会を持つことができた。概ねﾙｰﾙやﾏﾅｰに関して問題はなかったと言えるが、自転車ﾏﾅｰにおいては、課題として継続的に指導を行う必要がある。
	愛情を持って人に接する人間性の養成	各教科や各分掌との連携を図り、人間として望ましい在り方について考える姿勢の育成	B			
家庭・地域との連携(PTA)	保護者・地域との連携のより一層の強化	地域から注目され、信頼を得られる「地域創生推進校」を目指し、地域や PTA と連携した魅力ある学校づくりを行う	B		B	ｺﾛﾅ禍により校内・校外における会議やｲﾍﾞﾝﾄの多くが、中止、延期、縮小を余儀なくされた。文化祭での食品提供は中止。耐久走での活動は感染対策を行いながら実施することができた。 「PTA だより」については年 3 回の発行 PTA ﾒｰﾙについては毎週金曜日の配信を行うことができた。地域への一定の広報活動はできたと考える。
	地域への積極的な広報活動の展開	「PTA だより」・PTA ﾒｰﾙ等の広報発信をﾀｲﾑﾘｰに行い、「みがく、かがやく。」の実践を発信する	A			
学校図書館	図書・電子資料の適切な活用力の醸成、著作権意識の向上・豊かな読書生活への助長	紙面・ホームページ等を通じた情報発信資料の適切な利用促進読書活動の推進、読解力向上のための読書推進	B		B	紙面・HP を活用して、通年図書館だよりを配信することができた。 企画展示により、利用頻度の低い資料を紹介できた。各教科・地域資料の収集が今後の課題である。
	地域文化の資料・情報収集に努め、地域活性化への貢献を図る	地域の特色である林業を中心に、地域に関わる資料の収集、展示	B			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
農場部	ｺﾐｭﾆﾃｨｽｸｰﾙ構築に当たって「SDGs」を教育実践し、地域・生徒保護者のﾆｰｽﾞと期待に応える教育活動を推進する	大学等他校種間、地域、産業界と連携した仕掛けの実践	A	A	A	SDGs を実践し他校種、地域、産業界と様々な連携事業を実施した。その取り組みが評価され表彰やﾒﾃﾞｨｱに取り上げられ情報発信する中で生徒たちの自己肯定感の高揚と進路目標に結び付いた。 適切な目標設定により機械更新をはじめ農場収入の目標達成に結び付いた。すべての項目で達成度は高いと自負する。
		期待され信頼される職業学科の教育活動の実践	A			
		新たな取り組みや企画を成功させ、自己肯定感の熟成と進路実現の達成	A			
	実習棟の設備更新に伴う実習ｶﾘｷｭﾗﾑの再構築と安全で効率のよい農場収入の達成	効率的な農場運営と農場収入の目標達成	A	A		
		更新機械の安全ﾏﾆｭｱﾙの構築とその実践	A			
		他分掌との円滑な連携による結果の出る農場運営	A			
	個に応じた確かな進路実現	適切な目標設定と進路実現	A	A		
		資格取得の奨励と対策で合格率の向上	A			
寮務部	安心で信頼され、円滑な寮生活を送るためのﾙｰﾙや規則の徹底し、寮生活を通して社会性を涵養する	寮生徒とのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを充実させ、信頼される人間関係を構築し、きめ細やかな生活指導による規則の遵守	A		A	ｺﾛﾅ感染症の感染拡大を未然に防止することができた。 全体的にはﾙｰﾙ・規則は守れたが生活習慣の向上が必要である。 設備の修繕・更新は進んだが、急速な老朽化が進んでいるため設備更新が課題である。
	安全衛生と快適な生活環境の確保及び施設の充実	ひとりひとりが健康維持・増進と安全衛生の確保に勤め、施設・設備の点検と改善による快適な生活環境の確保	A			
事務部	生徒、教職員に信頼される教育環境づくり	改修工事、設備更新に併せた老朽改修の実施	A		A	関係教員と連携をとりつつ、施設更新を順調に進めた。部品の供給不足から一部の設備については遅れが生じた。
		感染対策を含めた、寄宿舎設備の一層の充実	A			
第１学年	適切な生活習慣の確立と規範意識の育成に努める	授業を受けるのに適した、落ち着いた学習環境を確保する	A	A	A	授業には落ち着いた態度で臨むことができており、生活態度その他も高校生としてふさわしいものであると認められる生徒が多い。 家庭での学習には個人差があるが、授業で出された課題等はきちんと出し切ろうとする意欲がある。 部活動の加入率は 90%を超え、学習との両立を図って努力している。 教育相談会議や教科担当者会議を通して、教科担任とも密な連絡を取りつつ生徒対応をすることができた。
		服装・挨拶・言葉使いなど、高校生としてのふさわしい態度、および自己と他者の双方を尊重する規範意識を育成する	B			
	学習指導の充実と自主活動への積極的参加を促す	基礎学力の向上のため、家庭学習習慣の定着を図る	B	B		
		部活動への積極的加入を促す	A			
		学習と部活動との両立をはかるため、分掌・教科・地域・家庭との連携を強化する	B			
		支援を要する生徒の情報を共有し、保健部と連携して適切な支援をする	A			
第２学年	進路実現に向けた学習指導の充実	授業規律の確保や家庭学習の習慣化による学習意欲の向上	B	B	B	凡事徹底を周知できるよう指導を行った。 手帳を活用し、学習の習慣化や予定の確認など意識付けができた。 評価向上には、まだまだ指導が必要と感じている。 各ｸﾗｽとも、適切な時期に面談や進路学習を行えた。 進路学習については、大学・企業見学を予定したが、実施することができなかった。代替案を提示し、実施した。 研修旅行に向け、普段から集団生活、生活態度を意識させることができた。事前学習への取り組みなど各自が強く意識することができ、充実した研修を行うことができた。
		具体的な進路目標を設定させるため適切な時期に面談を行い、具体的な希望進路を把握したうえで、進路実現に向けた情報提供を行う	B			
	適切な生活習慣の確立と規律意識、社会人としてふさわしい態度の育成	規範意識を高め、言葉遣いや服装など、高校生としてふさわしい態度を育成する	B	B		
		学校行事を通した仲間意識の向上、ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟや協調性の伸張	A			

評価領域	重　点　目　標	具　体　的　方　策	評価			成　果　と　課　題
第３学年	希望進路実現に向けた指導の充実	日々の授業を基本として家庭学習、平常補習、ｻﾃﾗｲﾄ学習を積極的に活用し、確かな学力の育成を図る	A		A	【成果】進路実現を目標に日々の授業に取り組み、希望する進学･就職先への進路開拓を実現した。 【課題】ｺﾛﾅ禍でもあり、最高学年として学校行事に携わる機会が少なかった。
	社会人基礎力の向上	学校行事等を通した仲間意識の向上やﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ・協調性の伸張、他人を思いやる心の育成を図る	B	B		
		自身の行動に対する責任と自覚を促すとともに、自己肯定感を醸成する	A			

《 教 科 》

教科	重　点　目　標	具　体　的　方　策	評価			成　果　と　課　題
国語科	学習習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る	計画的、継続的な小ﾃｽﾄや課題への取り組みを通じた、漢字･語彙などの、読解力を支える基礎的言語力の向上	A	A	B	読解力の基礎となる漢字･語彙の定着に向け、小ﾃｽﾄ等を継続的に行うことができた。また、週末課題等を計画的に取り入れるなど、家庭学習の習慣づけに向けた取り組みも充実させた。 外部講師と連携し、講演会、体験事業を行うなど、日々の授業内容を広げ深める取り組みにも力を入れた。 進路実現に向けた実践的な力の養成を視野に入れ、授業で書くこと、話すことの指導を積極的に行うとともに、授業外の時間にも個別指導を行うことで、希望進路実現の支援ができた。
		学習規律の確立と、生徒が興味関心を持てる授業づくりの工夫	B			
		授業での学びを広げ深める、外部講師と連携した取組の実施	A			
	実生活で生きてはたらく論理的思考と表現力の育成と希望進路実現の支援	新学習指導要領に応じた効果的な言語活動を通じての、思考力と表現力の育成	B	B		
		新ﾃｽﾄの記述問題や小論文、面接等を想定した、書くことと話すことの指導の強化	A			
		新ﾃｽﾄも想定した多様な文章について、精読や演習を通じた読解力、進路実現に向けた実践力の養成	B			
地歴･公民科	歴史、地理、公民各科目において、現代社会とのつながりを意識した授業展開を行い、主権者としての意識高揚	「教科書をじっくり読んで、ｱﾝﾀﾞｰﾗｲﾝ」「板書を写すだけでなく、ﾒﾓの追記」を徹底し、社会の仕組みに関する知識理解を深化させる	B		B	日々の授業では、知識･理解、資料解釈を意識し、長期休業期間を小論文･ﾚﾎﾟｰﾄに取り組む機会とし、思考力･表現力を磨く機会とした。結果、主権者教育に関するｺﾝｸｰﾙにおいて入賞者を出せた。また、授業･進学補習･生徒が運営管理を行うｻﾃﾗｲﾄ講座をﾍﾞｽﾄﾐｯｸｽさせた社会科の学力向上ｼｽﾃﾑを安定的に運営できた。
		主題を設定し、情報を調べたり、まとめたり、表現する学習活動を通して、賛否が分かれる社会事象について最善解を考える授業展開を行う	B			
		各公益団体が主催する公民分野の小論文ｺﾝｸｰﾙに積極的に応募し、上位入選を目指す	A			
数学科	学科･ｺｰｽに応じた授業展開で基礎力、応用力を育成し、新たな大学入試制度への対応を図り、希望進路の実現へと導く。	多様な生徒の実態に応じ、放課後等の適切な補充指導の実施	A		B	補習については、生徒の実情に合わせて指導することで、最大限の効果を狙うことができた。 iPad や Classi 等の ICT 機器を活用することで、授業及び家庭学習の効率化を図ることができた。
		定期的な課題提出、小ﾃｽﾄの実施による基礎学力の定着	B			
		進路希望に合わせた応用力の充実を推進	B			
		予備校ｻﾃﾗｲﾄ講座と併せて進学補習の充実	A			
理科	生徒の興味関心を引き出す授業の工着並びに科学的思考の育成を図る	各分野の特性、生徒の状況に応じて、義務教育段階での学び直しの内容を取り入れ、基礎学力の定着を目指す	B		B	学習分野や生徒の状況に応じ、各科目･講座により学び直しの内容を取り入れ、基礎力の定着をはかった。また、主に ICT を活用し、生徒の意欲向上や想像力を補助する教材作成も行った。 新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染拡大のため実験がなかなか実施できない状況であったが、実験方法の工夫や、ICT 教材や動画などの活用で、生徒の興味･関心を引き出すよう工夫した。
		計画的な観察･実験、演習･小ﾃｽﾄの適切なﾀｲﾐﾝｸﾞでの実施と、ICT 教材、動画、ﾌﾟﾘﾝﾄなど教材の効果的な使用により、生徒の学習意欲を向上させ、科学的思考力を育成する	A			

教科	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
保健体育科	基礎体力･運動技能の向上と健康の保持増進を図る	新体力ﾃｽﾄの結果から柔軟性に課題のある生徒が多いため柔軟性向上に取り組む	A	A	A	毎時間の準備運動や各種目の中で柔軟性向上に向けて取り組めた。どの講座、種目においても仲間と協力し楽しく取り組めた。特に３年のｸﾞﾙｰﾌﾟ学習ではﾘｰﾀﾞｰ中心に授業を組み立て、周りの生徒も協力し積極的に取り組み技術も向上しながらｽﾎﾟｰﾂを楽しむことができた。 今年度もｺﾛﾅにより地域の方々とｹﾞｰﾄﾎﾞｰﾙを行うことができなかったが、乗馬やｺﾞﾙﾌ等ｽﾎﾟｰﾂの多様な楽しみ方を伝えられた。
		保健の授業で調べ学習等を通して現代的な健康課題を発見し、健康のために適切な方法を選択･決定できるようにする	B			
	主体的･対話的で深い学びの視点に立った授業を行い、運動の楽しさや喜びを味わうと共に、公正、協力、責任や健康、安全に留意する態度を身につけさせる	仲間とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを取り、協力しながら行うことで楽しさや喜びを味わう	A	A		
		ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習で主体的･対話的に取り組むことによるﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ･ﾌｫﾛﾜｰｼｯﾌﾟの育成	A			
		健康運動では地域の資源を活用し、運動やｽﾎﾟｰﾂの多様な楽しみ方を社会で実践出来る力を育成する	B			
芸術科	「主体的･対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る	芸術表現の基本技術の習得	A	A		机間巡視を大切にし、個々のﾆｰｽﾞに則した指導ができた。 前年度の優秀作品を常時展示することで、作品制作に対する意識を高めることができた。
		芸術作品の基本的な鑑賞力の育成	B			
		芸術を愛好する気持ちの育成	B			
		一人一人と向き合い、創造力や感性を育むゆとりある年間指導計画	A			
英語科	多様な生徒の実態や進路希望に応じた学力の育成	基礎学力の向上を目指し、「予習⇒授業⇒復習」の学習ｻｲｸﾙの確立させるような指導や小ﾃｽﾄを実施	A	B	B	生徒が学習ｻｲｸﾙを確立できるよう適切なﾀｲﾐﾝｸﾞで課題を提示し、小ﾃｽﾄも実施した。 実用英語技能検定に合格に向け、自由英作文や面接の対策を個別に何度も行い、CEFR ﾚﾍﾞﾙ A2 以上の資格保持者が増加した。 昨年度に比べて AET の活用頻度が少し減少してしまった。次年度は年間指導計画に改善を加え、AET の活用できる時間をより多く捻出する。
		大学入試に対応できる学力の育成を目指した、予備校ｻﾃﾗｲﾄ講座の活用や進学補習の実施	B			
	新学習指導要領で示されている指導目標「４技能５領域(聞くこと、読むこと、話すこと(やり取り)、話すこと(発表)、書くこと)」の育成に向けたの指導の推進	生徒の英語を運用する機会を増加させることを目的とした AET の積極的な活用	B	A		
		４技能を測定可能な実用英語技能検定や GTEC を校内で実施し、CEFR ﾚﾍﾞﾙ A2 以上の資格(英検準２級以上)やｽｺｱ(GTEC ｽｺｱ 690 以上)の取得に向けた指導の推進	A			
家庭科	自立･共生する力を育み、様々な人々と協働し豊かに生きる生活者の育成	自らの生活と世の中の動きを関連付けて捉え、生活者として主体的に生きるのに必要な知識･技術の指導	A	A	A	18 歳成人や SDGs に関連する話題等、生活の主体者として世の中の動きを踏まえた授業展開ができた。ｺﾛﾅ対策を徹底し地域と連携した外部講師による特別授業や各種実習など、現状として最大限取り組むことが出来た。また、様々なｺﾝﾃｽﾄへの応募や ICT の活用等にも積極的に取り組んだ。個々の生活の課題解決の育成に向けて、指導内容をより充実させたい。
		地域との連携や様々な事業の活用による主体的かつ実践的な学習機会を多く設定	A			
		生活の中の課題解決の力の育成	B			
	分かりやすく生活や人生に役立つ授業･教材の工夫	生徒の実態やﾆｰｽﾞを把握し、効果的な授業の進め方や教材の工夫を実施(実習ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸの充実、視聴覚教材の活用)	B	B		
		新しい生活様式を踏まえた授業･実習への改善	A			
情報科	魅力ある教材の作成	生徒に応じた教材の選定(研修旅行事前学習･本の紹介ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝなど)	B	B		研修旅行の事前･事後学習や図書館と連携した「本の紹介」など、学校行事や学校施設を有効活用した。情報ｾｷｭﾘﾃｨの標語を応募した。
	情報の科学的理解	情報ﾓﾗﾙやｾｷｭﾘﾃｨ、最新機器に関することの実際の事例による理解の深化	B			
農業科 (森林ﾘｻｰﾁ科･京都ﾌｫﾚｽﾄ科)	実習林や木材加工棟にある教材を最大限に活かし、林業機械の操作等の実学を通して生徒の力を向上させる	様々な取り組みを通してｺﾐｭﾆﾃｨｽｸｰﾙを実践する	A	A	A	SDGs の実践と様々な取り組みにより自己肯定感の高揚、自己実現に向けた様々な仕掛けが機能しﾒﾃﾞｨｱ等にも取り上げられ情報発信できた。発表する農業ｸﾗﾌﾞ活動や課題研究にも積極的に取り組むことができた。
		ﾌｨｰﾙﾄﾞや機械操作を肌で感じ、取り組みを完結させる充実感の高揚させる	A			
	学科の特性を活用し、SDGs を実践する。生徒たちが様々な場面で実体験を重ね、社会に発信し自己肯定感を高めさせる	自己実現に向けた様々な仕掛けを企画する	A	A		
		実体験に基づく知識や技術を向上させ、さらに学習成果を発表することで自信を持たせる	A			

教科	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
総合的な探究の時間 （1年）	地域社会の課題を自らの課題として捉え、周り人々と協力しながら最善解を求めていく生き方を考える。また、授業で考察した内容を小論文や英作文、ｽﾋﾟｰﾁを通して伝える力を養う	第１学期(知識･理解)、第２学期(体験)、第３学期(小論文作成及び論旨発表または英作文及び口頭試問)という授業計画を実践する。	A	B	本校の特色である「地域と共に育む、学力向上ｼｽﾃﾑ」の基盤学習としてｶﾘｷｭﾗﾑ開発をし、本領域においては、他校の模範となる学習活動の水準まで到達している。 次年度、小論文&口頭試問、英作文&口頭試問の質的向上と「with ｺﾛﾅ」を意識し、感染状況に左右されない教育計画の策定に創意工夫が必要である。
		自分が授業を通して興味を持った内容について、小論文にまとめ、論旨説明や口頭諮問によって深めた内容を発表する。〔ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｺｰｽ〕	B		
		自分が授業を通して興味を持った内容について、英作文でﾚﾎﾟｰﾄする。その後、英語指導助手に対し、論旨の説明及び説明に対する質問に応答する。〔文理探究ｺｰｽ〕	B		
総合的な探究の時間 （2年）	異文化理解を深化させながら、知識や経験を英語で適切に伝え合うことができるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の養成	生活の中で学んだことや感じたことを、生徒同士で相互に伝え合う活動の実施	B	B	毎時間AETを活用し、身の回りのことを英語で表現する機会を十分に確保できた。 生活で学んだことや感じたことを伝え合う段階まで十分に到達できなかった。年間指導計画を見直し、その段階まで引き上げられるようにしたい。
		異文化理解の促進目的とした、AET の積極的活用	A		
総合的な探究の時間 （3年）	地域社会に生きる一人の人間としての自覚を高め、地域の魅力を発信することによってｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力や情報を取捨選択してまとめる力、表現力の育成を目指す	地域に発信、提案するﾌﾟﾗﾝを作成する事で学習への意欲の向上	B	B	地域活性化に向けた課題を見つけ、その解決のためのﾌﾟﾗﾝを提案できた。
		実際にﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝをすることによる、表現力の向上	A		

学校運営協議会による評価	自己評価･保護者評価(関係者評価)を踏まえ、今年度の教育活動全般に高い評価をいただいた。特にｺﾛﾅ禍にもかかわらず、最大限の感染予防を行いつつ、できる限りの学校行事を実施したこと、部活動等で全国的な活躍がみられたこと、ﾏｽｺﾐを通じて多くの教育活動が記事･ﾆｭｰｽで紹介されたこと、卒業生ほぼ全員が進路希望を実現したことには、とりわけ高評価をいただいた。 ただ、地域における少子高齢化の進行による志願者減少に対して、地域とともに発信力を高める取組を具体的に実行することが求められた。たとえば、寮の整備や下宿の確保に加え、公共交通機関の利便性向上が地域外からの志願者を確保する上で不可欠であること、そのためにも、こまめなHPの更新やSNSの利用等により情報発信力を高め、府内及び全国に向けて認知度を向上させる取組を組織的･計画的に推し進め、地域外からの入学者を増やす必要があるとの指摘をいただいた。 地域においても少子高齢化の歯止めとして地域外からの移住者増加策が進められているが、そのことで学校も活性化し、さらに学校が活性化することにより全国的に認知度が上がり志願者が増加し、付随して地域の認知度も向上するなどの相互好循環に転じる契機としたいとの意見もいただいた。
次年度に向けた改善の方向性	新入生から１人１台ﾀﾌﾞﾚｯﾄによる新しい教育活動が展開されることになるが、これを機に、地元小中学校とICT 教育を主とした交流･相互研修を行い、校種間接続を円滑に行うこととともに、生徒からの情報発信を適切に実施し学校の認知度を高める取組に着手する必要がある。さらに、寮の整備や下宿の確保、公共交通機関の利便性向上に向けての働きかけを本格化させ、実現へ向けた具体的な進展を図りたい。 地域の方々だけでなく、大学や大学校、専門機関･NPO 法人との連携をより深め、学校を活性化させる取組を充実させたい。行事や事業が多すぎて本来の教育活動に支障が出るといった状況に陥らないよう注意する必要はあるが、教育内容とのマッチングや生徒の成長の観点から取捨選択しつつ、効果の期待できる事業には積極的に取り組んでいく。 学校が活性化するためには教職員が元気に働ける必要があり、そのためにも働き方改革を進めたい。校内会議の効率化･短縮化、役割分担の見直しによる業務の平準化、一斉退勤時間の設定などにより、すぐにでも始められる対策から取り組んでいきたい。